

秋桜新語

1995年1月18日午前5時46分に神戸を震度7の地震が襲った。阪神淡路大震災だ。しかし、私たち高校生はまだ生まれていなかった。そこで、この震災から丁度20年が経ったのを機会に、この震災について調べてみることにした。

速道路の橋脚が折れ、橋が崩れた。山陽新幹線の姫路〜大阪間も80日間不通になった。救助に向かう救急車や消防車の行く手を倒壊したビルなど

た人の8割が、家族や近所の住民によるものだった。この地震は、4年前の東日本大震災と異なり、内陸直下型の断層による地震だ。同じ震度7

阪神淡路大震災から20年

多い。ボランティアの重要性。地表に現れない活断層の存在。送水管の耐震化の必要性。震幅の大きい地震によるビル倒壊の危険性などだ。昨秋に完成した新しい東区役所にも防災の設備が整えられた。まだまだこの地震から学ぶことは多い。想像力を働かせ、家庭、学校、地域社会でも出来ることを確認しておこう。

が阻んだ。水道管が壊れ、火事を消そうとした消防車からは水が出なかった。この地震で倒壊した建物から救助され

ではあるが、地震の震幅が大きかったためにビルの倒壊が多くなった。この震災から学んだことは

犠牲者は6434人。約25万棟が全半壊。多くのビルが倒れ、多数の火災が発生。高